

目 次

序	1
要約	3
第一章 現代世界の中のサウディアラビア〔小杉 泰〕	15
1．はじめに	15
2．危機を生き延びた王国	15
3．20世紀のイスラーム君主制	16
4．現代的な統治機構の整備：ファイサル体制とその継承	20
5．今日の諸問題	23
6．21世紀のサウディアラビア	26
第二章 サウディアラビアにおける経済と石油〔須藤 繁〕	30
1．はじめに	30
2．サウディアラビアと石油	30
3．サウディアラビア経済活動と経済改革の現状	34
4．国際石油供給におけるサウディアラビアの役割	43
第三章 アブドゥラー外交とその内政的位置付〔松本 弘〕	48
1．はじめに	48
2．サウディ外交の史的特徴	49
3．「アブドゥラー外交」の登場	52
4．アブドゥラー皇太子を取り巻く政治的環境	55
5．評価	60
第四章 サウディアラビアの軍事能力〔加藤 朗〕	65
1．はじめに - 中東の安全保障環境 -	65
2．サウディアラビアを取り巻く安全保障環境	67
3．サウディアラビア軍の能力と問題点	74
4．おわりに - 第二の湾岸戦争の可能性 -	78
第五章 サウディアラビア王国の国民アイデンティティの成立	
：過程と特性〔中村 覚〕	81
1．問題設定と先行研究	81

2 . 建国までの階層形成	85
3 . 建国から1960年代まで	
: 部族アイデンティティのサブカルチャー化	89
4 . オイルブーム期以降のアイデンティティ形成	98
5 . 湾岸戦争以降の新たな展開 : ムスリム・アイデンティティ とサウディアラビア・アイデンティティの相剋	115
6 . 結論と今後の展望	119
第六章 サウディアラビアの王権 祭祀王ファハド [保坂 修司]	125
1 . はじめに	125
2 . 雨乞いをする王	125
3 . 洗う王	130
4 . 踊る王	131
5 . 移動する王	134
6 . おわりに	140
第七章 サウディアラビアの体制派宗教勢力 [森 伸生]	142
1 . はじめに	142
2 . サウディアラビアの建国理念 国家原理としてのワッハーブ主義	143
3 . アブドルアジーズ王による国家統一と近代化政策	144
4 . 宗教界改編直前の1960年代のシェイク家の権勢	145
5 . 1970年第一回宗教界改編 シェイク家の衰退、平民宗教家の台頭	146
6 . ビン・バーズ師の活躍 各事件への対応	147
7 . 最高ウラマー会議人事異動	150
8 . 1993年第二回宗教界改編 最高法官の復活 ビン・バーズ師就任	152
9 . 1999年ビン・バーズ師の死去 最高法官にシェイク家から就任	153
10 . シェイク家が占めた閣僚ポスト	154
11 . 現在の宗教勢力の構造 宗教的影響力が強い機関	155
12 . 国内の宣教状況	163
13 . 最後に	170
第八章 サウディアラビアの宗教反体制派 [中田 考]	181
1 . はじめに	181
2 . ワッハーブ派の政治理念と国家原則	183
3 . 第3次王国における宣教国家の変質と統治基本法	184
4 . ワッハーブ派と政府批判	186

5 . 湾岸戦争以降の反体制運動	188
6 . 12イマーム派反体制派	190
7 . まとめ	191
資料1 : 現代サウディアラビアを理解するための文献リスト	193
1 . 欧米語	193
2 . アラビア語	199
3 . 日本語	202
資料2 : サウディアラビア関係年表	207